

9月例会は「本日公休」

3人の子供を育て上げた母親、理髪店の店主の物語

今年の夏も昨年に続き、暑い熱い日々が続いています。夕方になってもなかなか温度が下がりません。みなさん体調崩していませんか？

7月例会は、晴天が続く中でのまさかの豪雨。中止しようかと思うほどの雨足でしたね。

さて、今年では世界中で数千万人にも及ぶ命が失われ、広島・長崎に原爆が投下され、悲惨な体験をした第2次世界大戦から『戦後80年』という節目の年です。「二度と戦争をしない」という誓いは新しい憲法に謳われ、日本では80年間「殺し・殺される」ということはありませんでした。

テレビでは特集として『8月の声を運ぶ男』、『希望の光 ノーベル平和賞そして被爆80年』、『シュミレーション 昭和16年の夏の敗戦』、『治安維持法で投獄103才が今語る』、『ガマが消える前に 埋もれ行く戦争の記憶』、『広島からの手紙 “原爆”を綴ったアメリカ人たち』、『元軍医の遺言 特攻と覚せい剤』、『軍神と記者 特攻封じられた本心』、『財前直見 見知られざる特攻の町 故郷・大分』など多くのドキュメンタリーやドラマが配信されました。一過性に陥ることなく、世界中から戦火がなくなる日まで「平和」を訴え続けていきたい気持ちになりました。

さて、例会の運営ですが、運営委員と当日の会場要員がたりません。1時から設営準備と8時45分終了後の片付けのお手伝いいただける方募集します。また、鑑賞した映画の感想などお寄せください。ご協力よろしくお祈いします。

また、お互い気持ちよく映画を観賞するためにスマホの電源を切る・マナー設定にするなどお互い気をつけましょう。

例会のお知らせ

■名称／第137回例会「本日公休」

■日時／2025年9月17日(水)

①PM2:00～、②PM4:20～、③PM6:40～

■場所／加古川総合文化センター大会議室

(JR東加古川駅から北へ徒歩10分、車は加古川バイパス加古川東ランプ北東へ600m)

■受付／入会手続きが終わっている方は、受付に同



封の「例会参加券」をお渡しく下さい。入会手続きしていない方は、受付で4箇月分の会費(2000円)を支払い、入会手続きを終えてから「例会参加券」をお受け取りください。

【例会作品データ】

■タイトル／本日公休

■監督／フー・ティエンユー

■出演／ルー・シャオフェン、フー・モンポー、ファン・ジーヨウ、アニー・チェン、シー・ミンシュアイ、リン・ポーホン、チェン・ポーリン

■データ／2023年、台湾、106分

■ジャンル／ヒューマンドラマ、ロードムービー

■解説・ストーリー／台湾の俊英フー・ティエンユー監督が、自身の母親をモデルに執筆した脚本をもとに、実家の理髪店で撮影を敢行して完成させたヒューマンドラマ。

台中にある昔ながらの理髪店の店主アールイは40年にわたってこの店に立ち続け、常連客を相手にハサミの音を響かせている。彼女がひとりで育て上げた3人の子どもたちは既に独立して、頼りになるのは近所で自動車修理店を営む次女の元夫チュアンだけ。ある日、離れた町から通い続けてくれる常連客の“先生”が病に倒れたことを知ったアールイは、

店に「本日公休」の札を掲げ、古びた愛車に乗り込んで先生のもとへ向かう…。

『苫東映画祭』in 苫小牧の参加報告

第52回全国映画の仲間学習交流会『苫東映画祭』in 苫小牧(6/28,29)に参加してきました！会場は北海道の苫小牧駅の隣駅、大変静かな住宅地にある比較的新しい市域の文化センターでした。

一日目は「アイヌの結婚式」(1971)という大変貴重な記録映画の鑑賞とアイヌの伝統文化継承者である大須賀るえ子さん(83歳)のお話でした。「アイヌ」とはアイヌ語で「人間」という意味です。との言葉に迫害され差別を受けられた歴史に胸が痛みました。

二日目には苫小牧にゆかりのある二本の映画『春との旅』(2010)、『そして僕は途方に暮れる』(2022)を鑑賞し、4グループに分かれた感想会は大いに盛り上がったものでした。

一日目終了後の親睦会は参加人数が50数名と大変賑やかなものでした。偶然隣り合わせ、大いに映画談義に花を咲かせたエネルギー溢れる女性は、私が元町映画館で上映されていたのを知りながら観るのをためらった映画『どうすればよかったか』(統合失調症の姉と家族の記録)のプロデューサーでした(トホホ)。ちなみにその映画の監督も参加されており、同じグループメンバーであったのを知ったのは最後の最後でした(これまたトホホ)。その女性、浅野由美子さん監督作品『遊歩：ノーボーダー』(生まれつきの病、骨型不全症の女性の生き方を追ったドキュメンタリー)は、必ず観ますよ〜と自身に誓い、またの再会が今から楽しみです。北海道と遠い開催地だったので最初は参加をためらいましたが、映画祭終了後に同行者の長女と観光する時間も持て、良い4日間でした(道内移動中シカ、キタキツネに会いました〜)。(せん)

前回の例会報告

7月17日(木)の7月例会では、バリ・オペラ座のエトワールを目指していたが、足の負傷でバレエを引退した女性が、第2の人生を踏み出していくヒューマン・ドラマ『ダンサー イン Paris』を鑑賞しました。

有効記入者32名のうち、とてもよかった14名、よかった15名、ふつう2名、よくなかった1名でした。

感想は、美しい音楽と映像堪能しました。鍛錬された肉体と精神の健やかな感じがとてもよかった。正統派バレエの素晴らしさとヒップホップの楽しさを

味わえてお得な映画でした。フランス人との価値感の違いを感じました。…など。

参加会員69名、ほか明石シネマクラブから11名の参加がありました。

明石シネマクラブ例会情報

■名称／第90回例会 劇場版『アナウンサーたちの戦争』(2023年、日本、113分)

■監督／一木正恵

■出演者／森田剛、橋本愛、高良健吾

■ジャンル／戦争、ヒューマンドラマ

■内容／太平洋戦争では、日本軍の戦いをもう一つの戦いが支えていた。ラジオ放送による「電波戦」。ナチスのプロパガンダ戦に倣い

「声の力」で戦意高揚・国威発揚を図り、偽情報で敵を混乱させた。そしてそれを行ったのは日本放送協会(NHK)とそのアナウンサーたち。

戦時中の彼らの活動を、事実を基に映像化し、放送と戦争の知られざる関わりを描く。

■日時／10月22日(水)①AM10:30、②PM2:00—、③PM4:30—、④PM7:00—

■場所／アスピア明石9階子午線ホール(JR明石駅徒歩5分)

■目的・内容／加古川シネマクラブと明石シネマクラブの交流事業として、映画鑑賞の機会を増やし新入会員を増やそうと、例会に相互参加できるようにしています。

■受付／会場受付で、

①加古川シネマクラブの会員であることを証明するもの(氏名が記されている例会参加券が送られてきた封筒など)を提示し、

②鑑賞希望であることを告げて、

③受付簿にサインする。

■明石シネマクラブ TEL 090-3860-6662(金沢まで)

ご意見をお待ちしています

映画の感想や意見など、このニュースへ記事をお寄せください。200-300字程度にまとめていただければ助かります。おすすめ作品をファックス、メールや例会会場のアンケート用紙でお知らせください。

加古川シネマクラブ 〒675-0101

加古川市平岡町新在家 752-46 B-313 山本方

TEL 090-9283-0435 FAX 079-425-4499 ※

E-MAIL cinemaclub@nifty.com

<http://kakogawacinemaclub.c.ooco.jp/>

会員数 128人(7月17日現在)

